

# 東奥日報

2019年(令和元年)12月7日(土曜日) (18)

## 「つくるはしかみ」計画

# 町の魅力作品で表現

## 八工大生展示 海岸、山あいを取材

### 階上

八戸工業大学創生デザイン学科の学生たちが、階上町を巡って見聞きた地域文化などを基に制作した作品を展示するプロジェクト「つくるはしかみ」が、同町を主会場に開かれている。町の自然や生活を切り取った写真やイラストなどが来場者の目を楽しませている。8日まで。

(高松拓輝)

したい」と話した。

展示会場はほかに、同町の「わっせ交流センター」「ふるさと河川公園」「はしかみハマの駅 ありでいしば」「旧海産物養殖場」、八戸市の八戸工業大学、南部会館など。



八戸工業大学の学生が階上町の景色などを撮影した写真作品が並ぶ展示会場。道の駅はしかみ

プロジェクトは同学科の学生たちでつくる実行委員会が主催。大学キャンパスが町に近く、町内に下宿している学生が多いことなどから町の魅力を発信しようと、7月からフィールドワークなどを行って作品を制作してきた。プロジェクトには3年生ら20人のほか、県内外のアーティストが参加している。

このうち、同町の「道の駅はしかみ」では、店内に町内の海岸や山あいなどをさまざまな場所で撮影した写真や、イラストが並んでいる。同町出身の写真作家を展示した高橋祐賢さんは「中学時代までと現在の町は景色も雰囲気も違っように感じた。今の町をきれいに残したいという思いで撮影した」と解説した。

実行委員長の南遥香さんは「町の人も知らない魅力がある。町内外の人に発信